

令和6年能登半島地震に対する北陸地方整備局の対応について（第50報）

令和6年能登半島地震発生から2ヶ月の 北陸地方整備局の取り組みについてまとめました

1 被災自治体等の支援について	1
・ TEC-FORCE・リエゾンの派遣、災害対策機械の派遣などによる支援	
・ 液状化被害への対応	
2 道路の緊急復旧について	15
・ 能登半島 道路の緊急復旧の状況	
・ 能越自動車道・のと里山海道の通行状況と今後の見通し	
・ 市町道路調査（通行可能・孤立状況調査）	
3 河川の緊急復旧について	20
・ 河川・砂防・海岸の対応状況	
・ 河道閉塞等の箇所と対応状況	
・ 宝立正院海岸の被災と復旧状況	
4 港湾の緊急復旧について	25
・ 港湾の被害概要	
・ 被災した港湾・空港等への対応	
5 本復旧に向けての体制について	30
・ 災害復旧工事の権限代行及び直轄事業の実施・担当事務所等	
・ 本格復旧に向けた技術的な検討委員会	
6 建設業者、協定団体等の活動	36

令和6年能登半島地震に対する対応状況は、北陸地方整備局ホームページやX（旧 Twitter）でも発信しています

北陸地方整備局

ホームページ

URL : <https://www.hrr.mlit.go.jp/>



X(旧 Twitter)



問い合わせ先

北陸地方整備局 TEL（代表）025-280-8880
所 属 氏 名
企画部 企画課長 西村 雄喬

【リエゾン】

- 発災直後からリエゾンを石川県、3市4町（七尾市、輪島市、珠洲市、志賀町、中能登町、穴水町、能登町）に派遣。

【TEC-FORCE】

- 1／2から全国のTEC-FORCEが集結し、活動を開始。2／27、全国の地方整備局等による広域TEC-FORCEによる被災状況調査は終了。
今後の要請に基づく被災状況調査は北陸地方整備局で対応予定。
- 給水支援活動は1／3から活動（最大21台体制（1／18））し、引き続き、飲料用水、トイレ用水、洗濯用水のための給水を行うとともに、上水道施設の漏水点検のための給水を実施。
- 上水道復旧を加速化させるために待機支援車の提供を実施。

【物資・資機材支援】

- インフラの復旧を円滑に実施するため、石川県建設業協会等に協力してもらいながら、碎石の調達・集積拠点までの輸送を実施。

TEC-FORCE

のべ 約 5,800班・日
約19,000人・日

全地方整備局等

給水機能付散水車

22台

(うち北陸以外20台)
東北、関東、中部、近畿、
中国、四国、九州

防災ヘリ

4機

(うち北陸以外3機)
東北、関東、近畿

照明車

83台

夜間照明用・電源支援用
(うち北陸以外50台)
関東、中部、近畿、中国

Car-SAT

4台

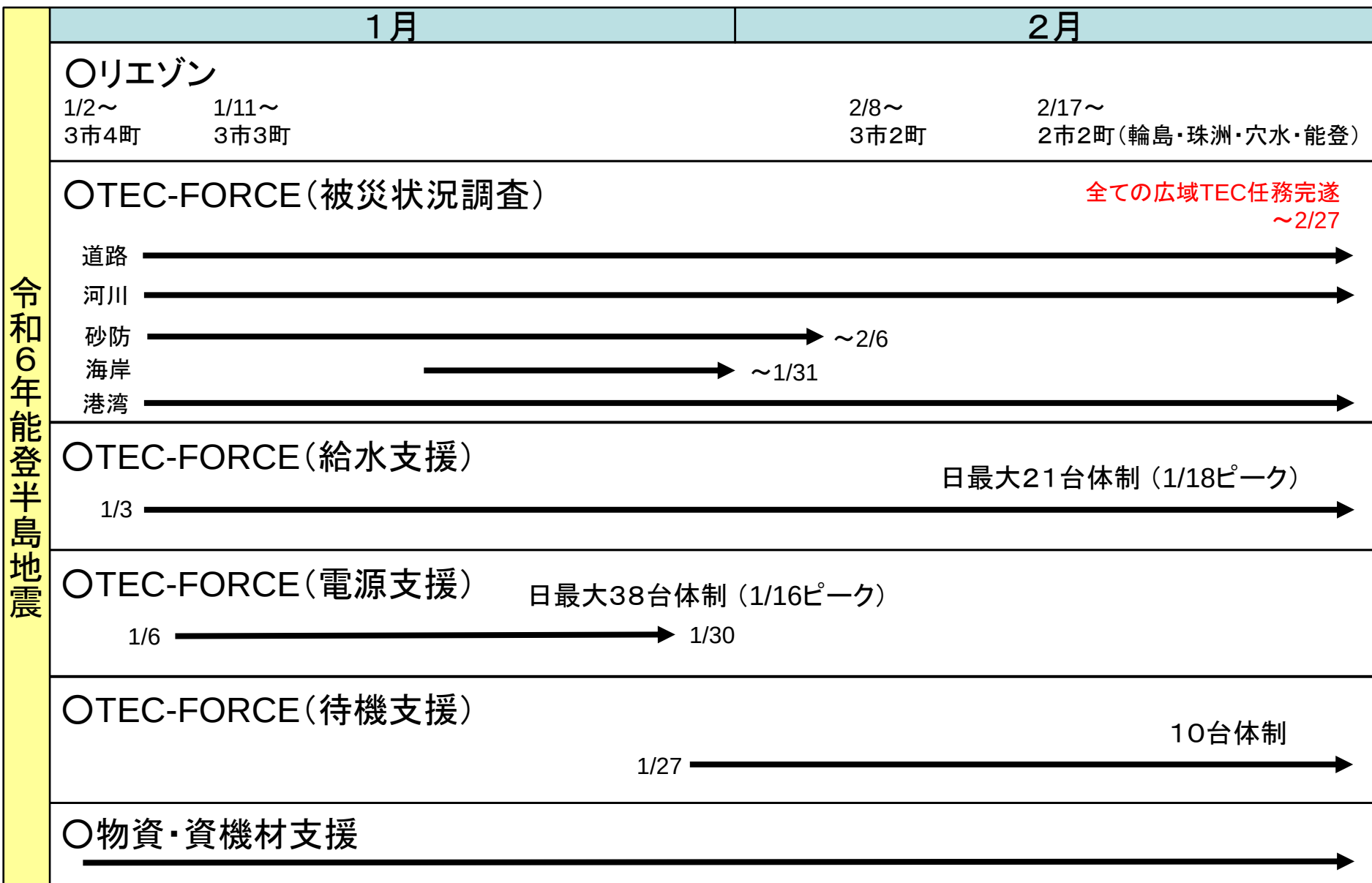
(うち北陸以外3台)
関東、中部、近畿

待機支援車

32台

水道復旧支援・緊急工事従事者等の待機支援
(うち北陸以外28台)
東北、関東、中部、中国、四国、九州

北陸地方整備局等の主な災害支援活動(石川)



令和6年能登半島地震

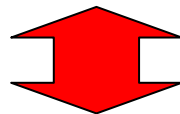
リエゾンとは

- リエゾン(災害対策現地情報連絡員)は、被災地方公共団体の被害状況や支援ニーズを把握し、被災地等災害対策本部に情報伝達を行うほか、被災地等からの情報や TEC-FORCE 等の支援メニュー等に関する情報提供をする。
- 被災地で活動する様々な災害対応機関と連絡調整を行うとともに、必要に応じた臨機に対応を行う。
- 警察・消防・自衛隊等の人命救助にあたる各機関との情報共有、政府への対応、被災地方公共団体への高度な技術的助言等を行う。

令和6年能登半島地震でのリエゾンの活動

- 地震発生直後から、石川県庁や輪島市、珠洲市等の被災自治体にリエゾンを派遣し、自治体の被災情報や支援ニーズを把握し、支援調整を実施。
- 得られた情報を災害対策本部に速やかに報告し、迅速な自治体支援につないでいる。

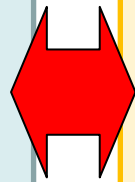
災害対策本部
(TEC-FORCE総合司令部)



リエゾンの情報により、迅速な自治体支援につながっている。

TEC-FORCE(国土交通省緊急災害対策派遣隊)

リエゾン



物資支援、被災状況調査等の自治体支援



○全国から国土交通省TEC-FORCEが集結し、被災状況調査や災害対策機械による応急対応等の技術支援を実施。
○令和6年2月29日時点で、のべ約5,800班・日、約19,000人・日で活動を展開(総合指令・リエゾン等含む)。



道路の被災状況調査



土砂災害の被災状況調査



河川の被災状況調査



海岸の被災状況調査



港湾の被災状況調査



建築物の応急危険度判定

TEC-FORCE被災状況調査報告の事例

➤ 被災状況調査(河川・砂防・海岸・道路・港湾)は、公共土木施設や土砂災害危険箇所等において被災力所(範囲)及び迅速な被害の状況の把握、危険度の判定、被害(概算)額の算定を行い、二次被害の発生及び被害の拡大防止、迅速な復旧、復興を支援することを目的に実施。各調査結果は、各被災自治体へ報告し、災害報告等に活用いただいている。

TEC-FORCE
令和6年能登半島地震における被災状況調査(河川)
【輪島市】
報告書
(1/3)



Technical
Emergency
Control
—
FORCE
TEC-FORCE: 緊急災害対策推進

令和6年2月20日
国土交通省 北陸地方整備局
国土交通省 関東地方整備局
国土交通省 近畿地方整備局
国土交通省 北海道開発局

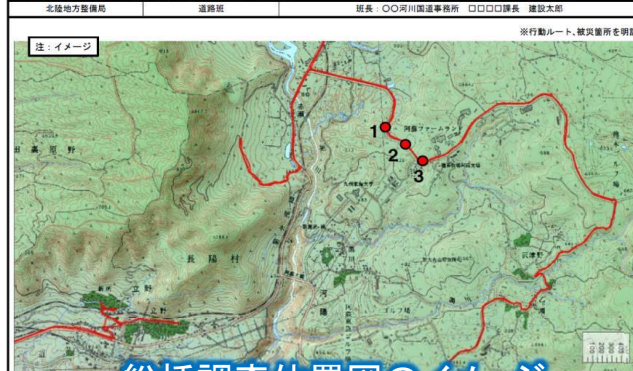
【様式-13】総括表〔記載例〕

北陸地方整備局			道路班		班長：〇〇河川国道事務所 〇〇〇課長 建設太郎				
箇所 番号	調査日時	調査箇所名 (河川名・路線名・地先等)	災害種別	被災施設（代表施設） 被災規模（延長・高さ等）	被害状況				概算被害額 (百万円)
					一般被害	交通規制	応急対応	その他	
1	8月1日 9:00時点	〇〇〇〇線 〇〇県〇〇市〇〇地先	道路	コンクリート・ブロック積み擁壁の崩壊 L=約30m、SL=約15m	無し	全止め 迂回有り	必要	崩落箇所に 電柱有り	〇百万円
2	8月1日 11:00時点	□□□□線 〇〇県〇〇市□□地先	道路	コンクリート・ブロック積み擁壁の崩落 L=約10m、SL=約2m	無し	片交	必要	—	〇百万円
3	8月1日 15:00時点	△△△△線 〇〇県〇〇市△△地先	道路	コンクリート・ブロック積み擁壁の崩壊 L=約20m、SL=約15m	家屋 1戸全壊 2戸半壊	全止め 迂回有り	詳細調査 が必要	—	〇百万円
4	8月2日 10:00時点	〇〇〇〇線（××川） 〇〇県〇〇市××地先	橋梁	P1～A2間の床版流失 L=約6m、W=約2m	無し	全止め 迂回有り	不用	—	〇〇百万円
5	8月2日 13:00時点	△△△△線（××川） 〇〇県〇〇市××地先	橋梁	P1橋脚の異常洗掘 護床7m7全流失	無し	無し	必要	—	〇百万円
総括表のイメージ									
（調査箇所名 被災施設・状況 概算被害額等）									

総括表のイメージ

(調査箇所名、被災施設・状況、概算被害額等)

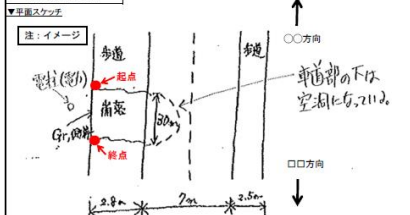
【様式-14】総括調査位置図〔記載例〕



総括調査位置図のイメージ

【様式-15】調査表①〔記載例〕

箇所番号	調査日時	調査箇所名	災害種別
1	8月1日 9:00時点	○○○○線 ○○県○○市○○地先	道路
調査箇所	河川・路線名等	○○○○線	
調査箇所	地先等	○○○○市○○地先	
調査箇所	起点座標	緯度(N) 123° 45' 67" 経度(E) 98° 75' 43"	
調査箇所	終点座標	緯度(N) 123° 45' 67" 経度(E) 98° 32' 10"	
被災施設(代表施設) 被災規模(延長・高さ等)	コンクリートブロック積み擁壁の崩壊 L=約30m、SL=約15m		
被災箇所	被災原因		
被害状況	一般被害	交通規制	応急対応
被害状況	無し	全止め 迂回有り	必要
被災状況(スケッチ)	橋脚部内、土砂等により排水不良となり、降雨が低い箇所に来たため、土砂の水位が上昇し崩壊したと考えられる。		



被災概況のイメージ

【様式-16】調査表②〔記載例〕

箇所番号	調査日時	調査箇所名	災害種別
1	8月1日 9:00時点	○○○○線 ○○県○○市○○地先	道路
調査箇所	河川・路線名等	○○○○線	
調査箇所	地先等	○○○○市○○地先	
被災施設(代表施設) 被災規模(延長・高さ等)	コンクリートブロック積み擁壁の崩壊 L=約30m、SL=約15m		
被災箇所	被災原因		
被害状況	一般被害	交通規制	応急対応
被害状況	無し	全止め 迂回有り	必要
被災状況(スケッチ)	橋脚部内、土砂等により排水不良となり、降雨が低い箇所に来たため、土砂の水位が上昇し崩壊したと考えられる。		



＜コメント＞
被災箇所の前後においても土砂崩落のため、構造物が害に及んだ状態になっており、近づくことは危険である。

＜コメント＞
周辺状況は、山間部のため、家屋等への被害の恐れはない。



被災状況写真のイメージ



調査結果説明(輪島市)



手交(輪島市)

- 発災当初からは、日水協・自衛隊・国交省3機関の給水車は、避難所における市民への飲料水等の給水、病院における飲料水や雑用水の給水、市役所や災害対応施設における給水等を実施。
- 発災2週間目以降は、日水協・自衛隊の給水車は引き続き断水地域の飲料水等を中心に給水活動を行い、国交省の給水機能付き散水車は仮設トイレや洗濯用水などの生活に必要な給水活動や上水道配水管の復旧作業支援として、漏水点検のための給水活動など活動の幅を広げて実施。

飲料・雑用水給水



志賀町 富来活性化センター



珠洲市 珠洲総合病院

トイレ給水



輪島市内 仮設トイレ約270基

洗濯給水



輪島市 移動式ランドリーカー



漏水点検給水

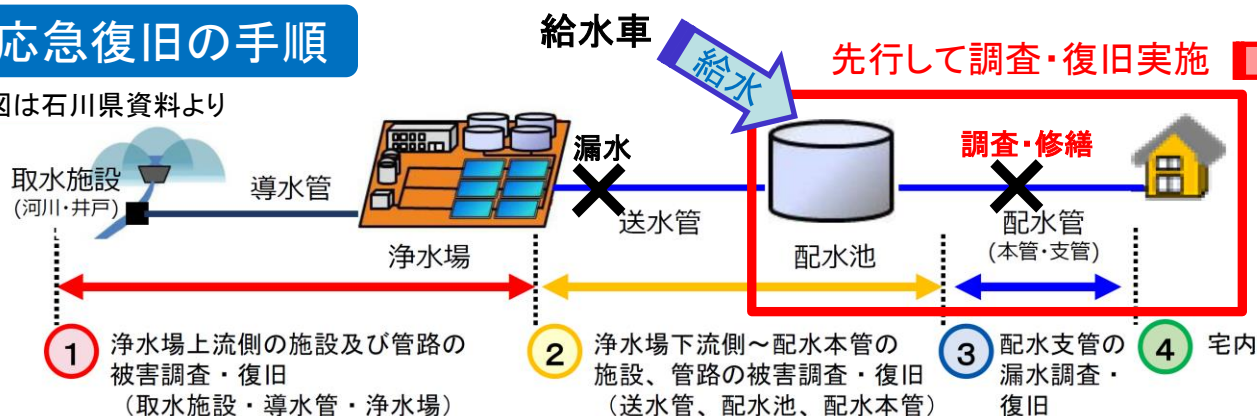


輪島市 清土ポンプ場 配水管漏水調査

- 配水管の被害調査・復旧は、管に圧のかかった水を充填し、漏水発生箇所を特定し、修繕を行う繰り返し作業により実施。
- 浄水場→配水池→配水管と片押しの調査ではなく、配水池への送水管の復旧前に給水車によって水を貯め、配水管に水を流すことによって先行調査を実施でき、並行作業によって上水道の通水を早めることが可能。

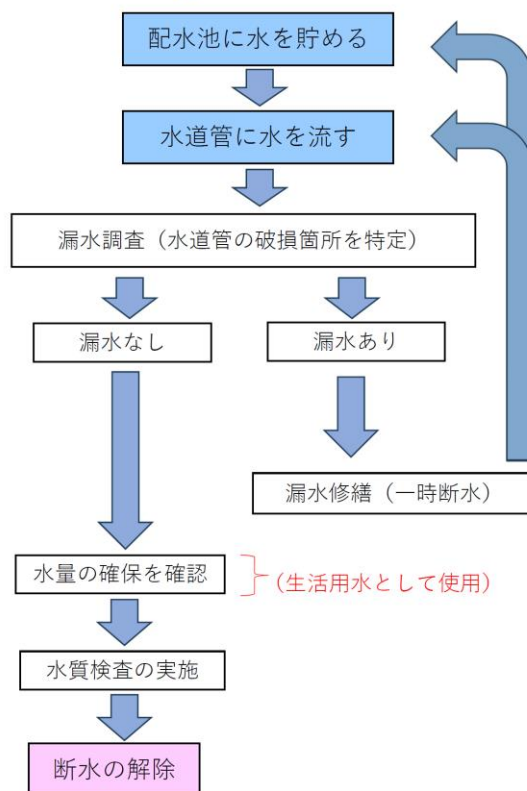
応急復旧の手順

図は石川県資料より

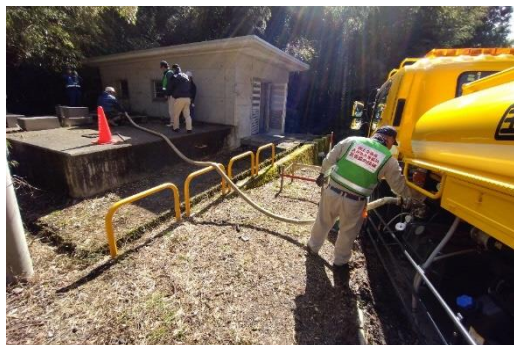


水道復旧までの作業内容

七尾市HPより



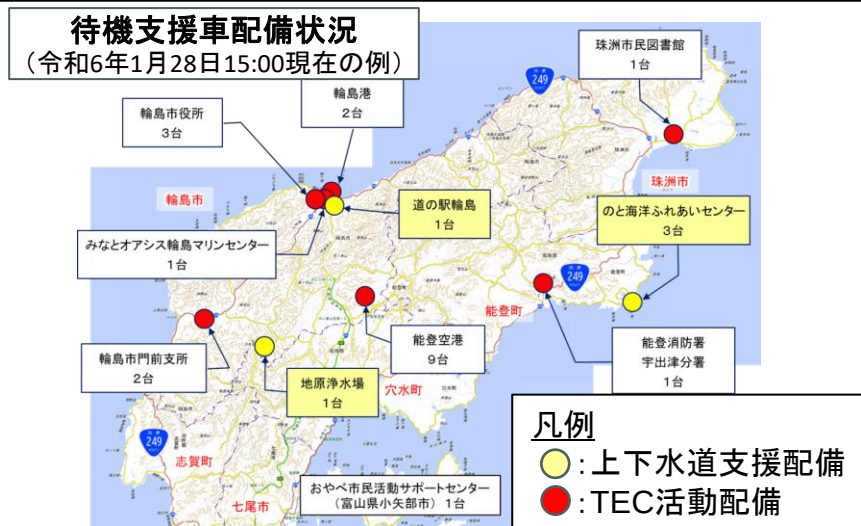
漏水点検給水



輪島市清土ポンプ場 日本水道協会による配水管漏水調査への給水支援

待機支援車を活用した支援者の宿泊支援

- ▶ 被災地での宿泊先の確保が難しく、被災地周辺の宿泊拠点から被災現場までの移動時間も要するため、上下水道支援班の活動を支援するため、作業従事者の宿泊先として待機支援車10台(東北地整1台、関東地整2台、北陸地整1台、四国地整5台、九州1台)を追加配備。
- ▶ 輪島市(みなとオアシス輪島マリンセンター、道の駅輪島、地原浄水場)、珠洲市(珠洲市民図書館)、能登町(のと海洋ふれあいセンター)へ配備。



照明車を活用した多様な被災地支援(1/30終了)

- 照明車(関東地整19台、中国地整5台、近畿地整15台)を活用して下記を実施。
- ① 資源エネルギー庁が配備する電源車が派遣されるまでの間の応急対応として、国土交通省所有の照明車を電源車として先行派遣し、避難所への施設給電
 - ② 電力供給が十分ではない避難所へコンセント給電(スマートフォン等家電製品への電力供給)
 - ③ 野外の仮設トイレ等への照明の提供
- 珠洲市(旧本小学校(1/6～7)、第三長寿園(1/7～19)、勤労者センター(1/8～14)、粟津ビニールハウス(1/9～11)、元気の湯跡(1/9～15)、珠洲市役所(1/19～29)、旧柏原保育園(1/20～24))、輪島市(港公民館(1/7～19)、道下集会所(1/8～18)、浦上公民館(1/8～12)、劔地原子力防護施設(1/8～29))で実施。
- 電源復旧が進んだことから1/30にて輪島市、珠洲市における電源支援を終了。



旧本小学校への電源供給



道下集会所への外部照明提供

令和6年能登半島地震における市町への物資支援【石川県】

【2月27日12:00現在】

○1月1日の地震発災以降、震度5弱以上を観測した石川県内全市町(11市8町)とのホットライン速やかに確立し、特に被害の大きい能登地方の7市町に国土交通省職員をリエゾンとして派遣

○リエゾンが収集した情報やホットラインでの要請を受け、石川県・富山県の各市町にプッシュ型で物資支援等を実施

輪島市

飲料水(0.5ℓ)	12,400本
(1.5ℓ)	1,312本
(2.0ℓ)	598本
給水袋	1,290個
食料	13,894食
カイロ	2,900個
衛生用品	3,200個
全身用ウェットタオル	237個
水のいないシャンプー	55個 等

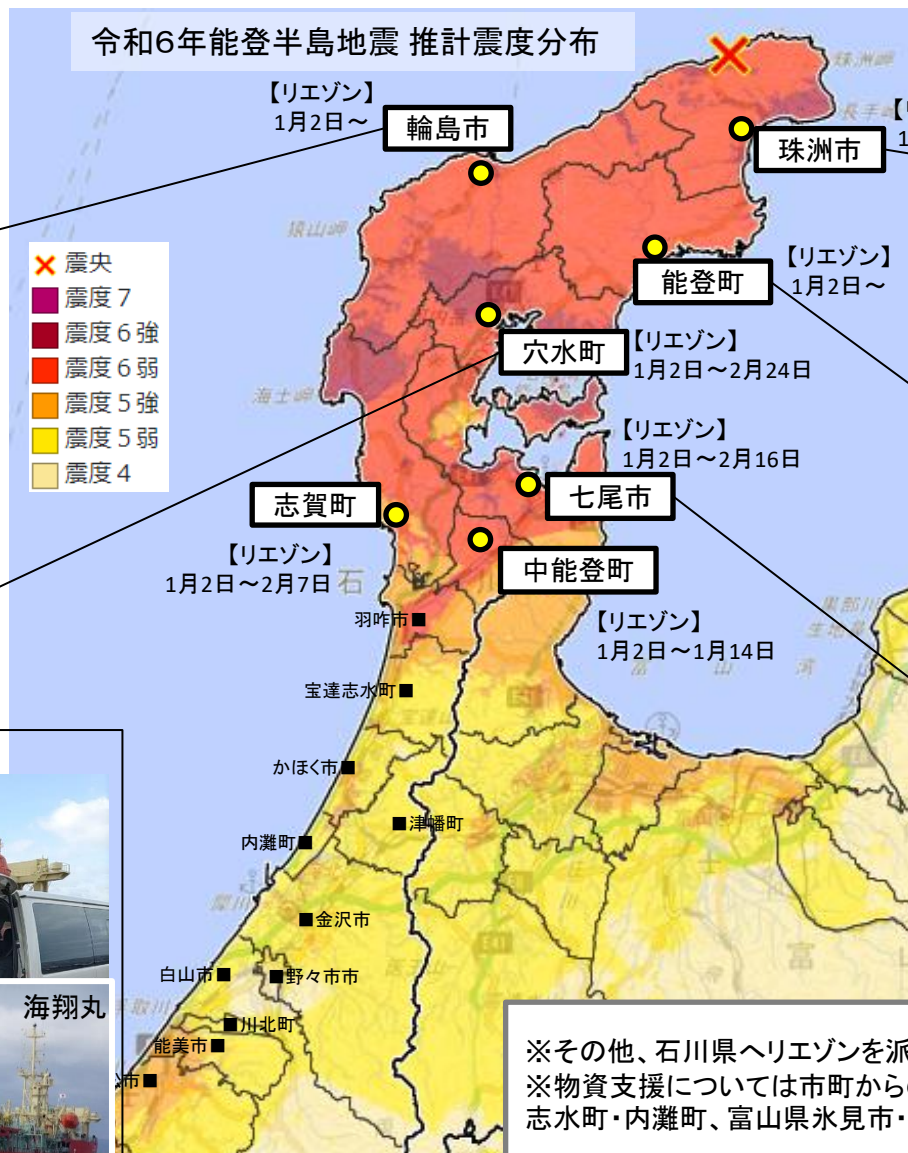
穴水町

飲料水(0.5ℓ)	5,216本
(1.5ℓ)	126本
(2.0ℓ)	144本
食料	835食
カイロ	150個 等

九州地方整備局の浚渫兼油回収船「海翔丸」による支援物資の海上輸送



七尾港での荷下ろし



珠洲市

飲料水(0.5ℓ)	8,536本
(1.5ℓ)	2,184本
(2.0ℓ)	2,144本
給水袋	575個
食料	2,630食
カイロ	3,090個 等

能登町

飲料水(0.5ℓ)	6,200本
(1.5ℓ)	294本
(2.0ℓ)	360本
食料	5,692食
カイロ	60個 等

七尾市

飲料水(0.5ℓ)	504本
食料	294食
カイロ	2,000個 等

※その他、石川県へリエゾンを派遣中

※物資支援については市町からの要請を踏まえ、石川県羽咋市・かほく市・宝達志水町・内灘町、富山県氷見市・高岡市・魚津市・射水市・小矢部市にも提供

令和6年能登半島地震における市町への資材支援【石川県】

【2月27日12:00現在】

○1月1日の地震発災以降、道路路面損傷、崩落土砂、水道など被災した施設の応急復旧用資材等を災害協定等を活用し、順次、被災した各市町にプッシュ型で提供。

輪島市

ブルーシート 2,390枚
簡易トイレ 7,900個
非常用トイレ 300個
仮設トイレ 30基
土嚢袋 800個
トラロープ 200m
砕石 6,544m³ 等

穴水町

ブルーシート 788枚
簡易トイレ 3,800個
仮設トイレ 18基
常温合材 450個
凍結防止剤 40個
土嚢袋 400個
カラーコーン 200個
砕石 2,525m³ 等

志賀町

ブルーシート 1,372枚
土嚢袋 2,600袋
トラロープ 200m
砕石 638m³ 等

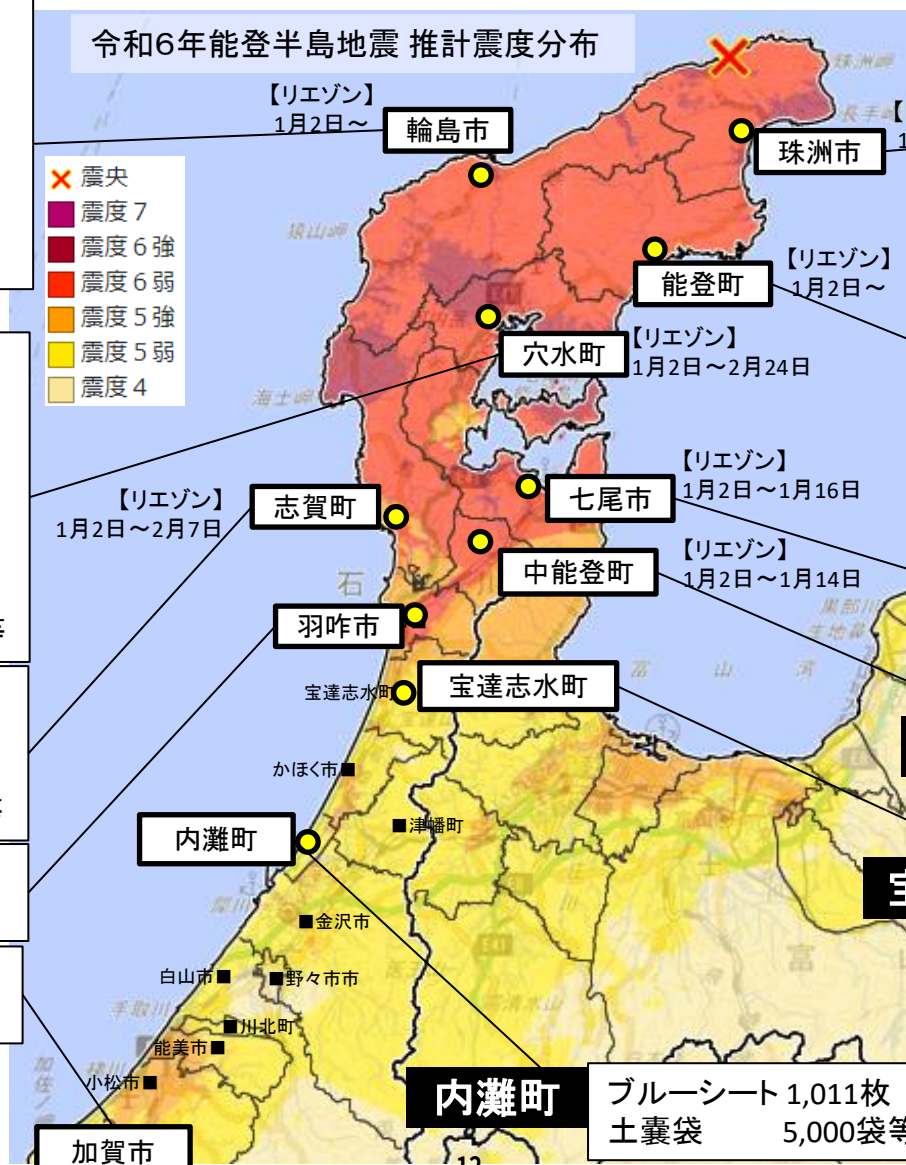
羽咋市

ブルーシート 100枚
土嚢袋 5,528袋 等

加賀市

カラーコーン 240個
コーンバー 200個

令和6年能登半島地震 推計震度分布



珠洲市

ブルーシート 3,305枚
仮設トイレ 46基
簡易トイレ袋 6,600袋
土嚢袋 15,490袋
トラロープ 1,000m
砕石 1,000m³ 等

能登町

ブルーシート 830枚
簡易トイレ 3,550個
砕石 5,619m³
カラーコーン 600個
凍結防止剤 100個
耐候性大型土嚢袋 3,500個 等

七尾市

ブルーシート 500枚
投光器 10台
カラーコーン 1,000個 等

中能登町

ブルーシート 645枚
防災シート 81枚
土嚢袋 400袋 等

宝達志水町

ブルーシート 1,950枚
土嚢袋 5,000袋
カラーコーン 100個 等

内灘町

ブルーシート 1,011枚
土嚢袋 5,000袋 等

※資材支援については市町からの要請を踏まえ、富山県氷見市・高岡市・魚津市・射水市・小矢部市にも提供

○1月1日の地震発災以降、道路路面損傷、崩落土砂、水道など被災した施設の応急復旧用資材等を災害協定等を活用し、順次、被災した各市町にプッシュ型で提供。

氷見市

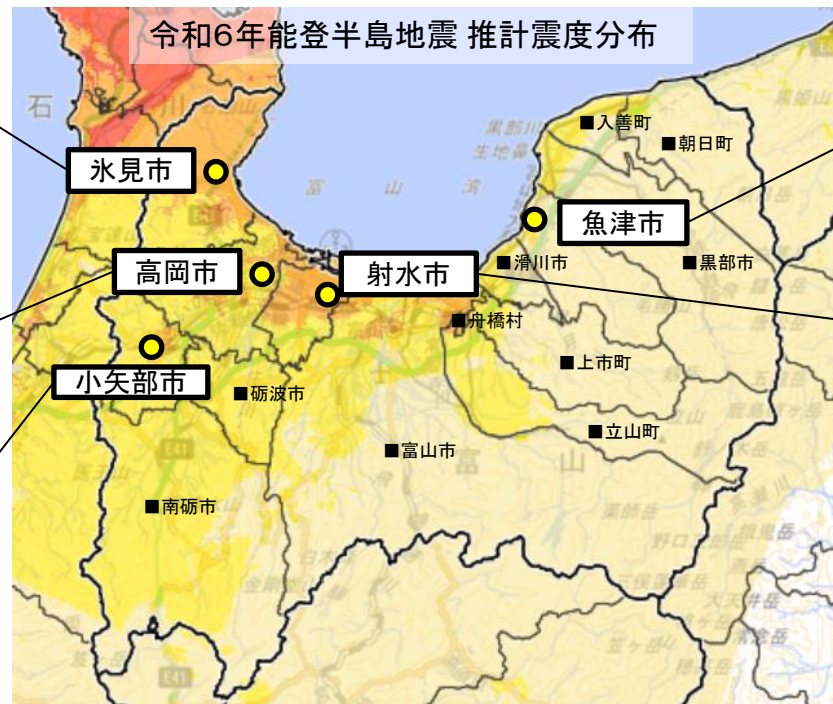
飲料水(0.5ℓ) 1,080本
ブルーシート 700枚
カラーコーン 200個
土嚢袋 1,000個

高岡市

ブルーシート 437枚
土嚢袋 18,000個

小矢部市

カラーコーン 100個
バリケード 30個
コーンバー 50個
工事看板 20個



魚津市

ブルーシート 100枚

射水市

カラーコーン 100個
コーンウェイト 60個
バリケード 20個
コーンバー 50個
常温合材 50袋
工事用看板 20個

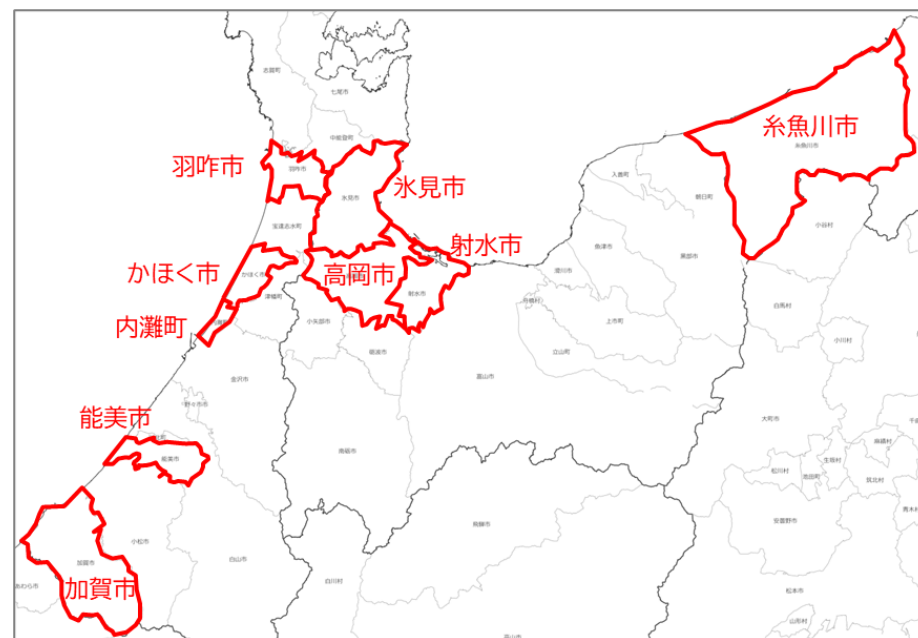
富山河川国道事務所による物資・資材支援



液状化被害への対応

- 地方整備局では、自治体からのニーズに基づき、公共施設等の液状化被害状況の調査、公共施設の復旧方針の提案等をTEC活動にて実施。
- また、自治体向けの液状化対策相談窓口を開設(1/29～)するとともに、被災自治体も参加した会議を開催し(1/29, 2/14, 2/20, 2/28)、過去の地震による液状化対策の情報等を提供するなど、被災自治体のサポートを実施中。

県	市町村	期間
石川県	内灘町	1/19～2/8
	かほく市	1/23～2/8
	羽咋市	1/22～2/5
	能美市	1/25～2/9
	加賀市	1/22～2/5
富山県	高岡市	1/9～25
	氷見市	1/11～2/9
	射水市	1/16～2/7
新潟県	糸魚川市	(実施中)



【道路の緊急復旧状況】

- 1／2から幹線道路の緊急復旧に着手。24時間体制を構築し、地元を中心とした各建設業協会や(一社)日本建設業連合会の応援を受け、緊急復旧作業を順次実施。1／2には奥能登中心市街地まで普通車の通行を確保。1／4には大型車が通行可能となった。
- 孤立集落は1／19に実質的に解消。引き続き、水道・電力などの要望、自治体の要請を踏まえ、緊急復旧を実施。
- 国道249号(啓開不可区間除く)については、2／20をもって緊急復旧完了。

【能越自動車道・のと里山海道】

- 能越自動車道、のと里山海道の通行止め区間について、北向き通行止め解除・対面通行の区間を順次拡大しており、3月中旬までに全線で1車線通行(北向き(輪島方面)への一方通行)を確保できるよう緊急復旧を実施中。

【市町道路調査】

- 輪島市と穴水町において、速やかな復旧及び効率的な被災状況調査の実施を目的に市町道路調査を実施。通行可能調査(通れるマップ)にあわせて孤立状況調査を実施。被災状況調査については、2／27までの調査報告書の手交をもって完了。

【技術検討委員会】

- 甚大な被災を受けた能越自動車道輪島道路・穴水道路及び直轄権限代行区間等の早期復旧に向けた対策について、「令和6年能登半島地震 道路復旧技術検討委員会」を開催。(P33)

【協定団体等の活動】

- (一社)日本建設業連合会において、能越自動車道、のと里山海道、国道249号等の緊急復旧を実施。(P38)
- (一社)日本道路建設業協会北陸支部において、国道249号の権限代行区間等の路面補修・拡幅工事を実施。(P39)
- (一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部及び(一社)全国地質調査業協会連合会北陸地質調査業協会において、能越自動車道、国道249号沿岸部の復旧調査、被災状況調査、地質調査を実施。(P41)

令和6年能登半島地震 能登半島 道路の緊急復旧の状況

令和6年2月29日(木) 07時00分時点
国土交通省・石川県

- 1/2から幹線道路の緊急復旧に着手。24時間体制を構築し、地元を中心とした各建設業協会や(一社)日本建設業連合会の応援を受け、緊急復旧作業を順次実施。
- 沿岸部では被災箇所が多数確認されているため、自衛隊と連携し、内陸側・海側の両方からくしの歯状の緊急復旧も進めており、13方向で通路を確保。
- 孤立集落は1/19に実質的に解消。引き続き、水道・電力などの要望、自治体の要請を踏まえ、緊急復旧を実施。

主要な幹線道路における緊急復旧の進捗率

	1/7 7時	現在
半島内の 主要な幹線道路	約6割 ⇒	約9割
うち国道249号 沿岸部※1	約2割 ⇒	約8割 (迂回路を考慮: 約9割)
沿岸部への到達 ※2	6方向 ⇒	13方向

※1: 輪島市門前町～珠洲市役所、※2: 内陸側・海側の両方

孤立地区数の推移※3

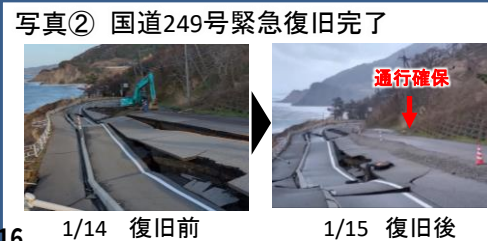
1月5日8時	33地区 (最大3,345人)
1月19日	実質的に解消 ※4

※3: 内閣府防災資料より
※4: 2/13に全て解消

生活インフラ復旧に必要な重要箇所の緊急復旧状況※5

優先復旧の要望数	43箇所
うち完了数	36箇所(約8割)

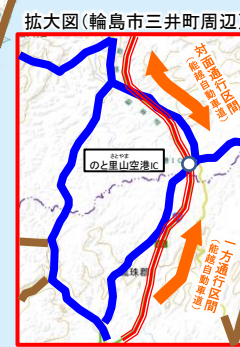
※5: 水道、電力、通信、放送事業者より聞き取り



凡例

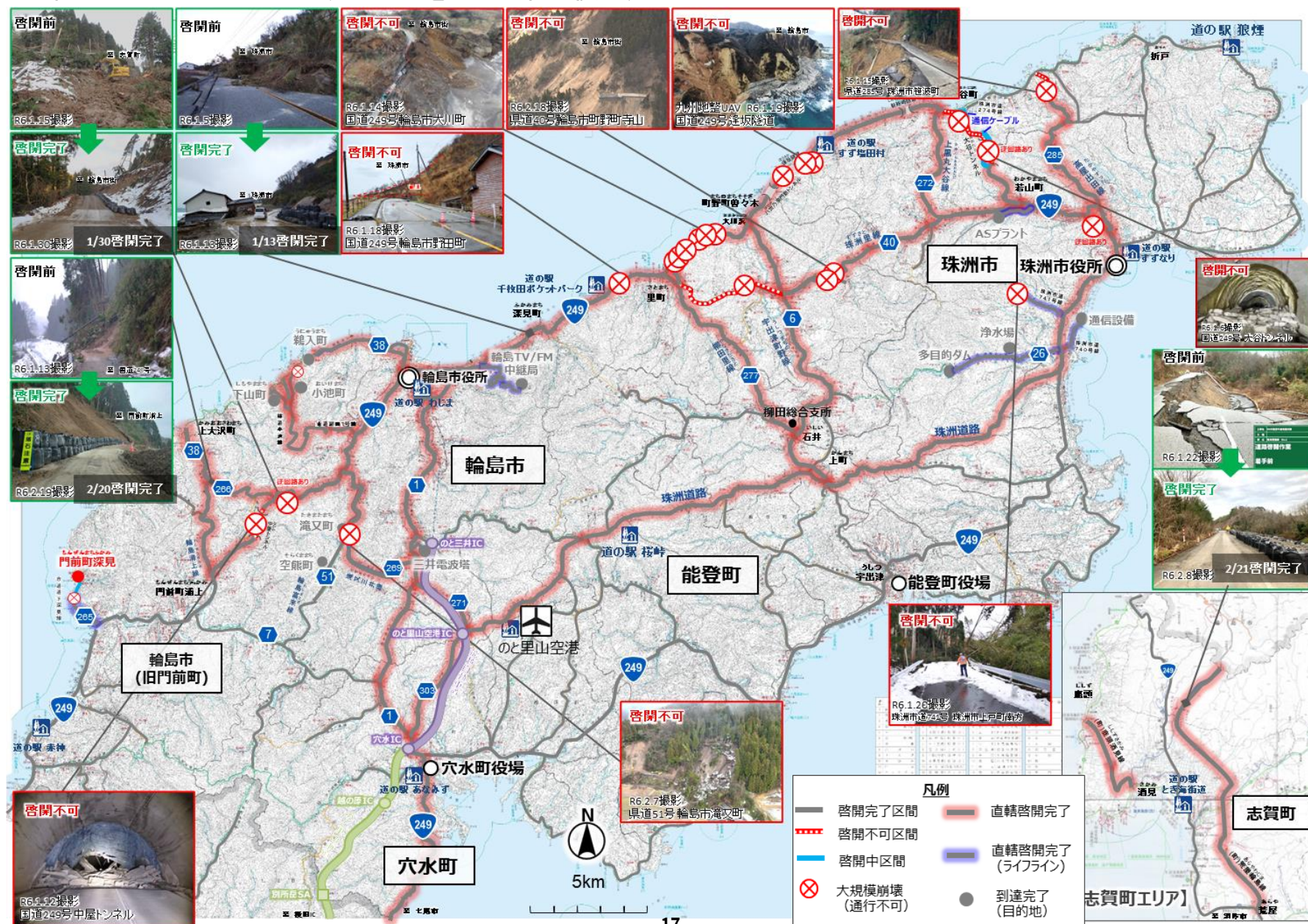
- : 国交省対応(走行可能)
- : 県対応(走行可能・この他にも作業を実施)
- : 自衛隊対応(走行可能)
- : 自動車専用道路(走行可能)
- ≡ ≡ ≡ : 自動車専用道路(走行不可)
- ✕ : 被災規模 大
- ★ : 国復旧業者作業箇所
- : 沿岸部への到達点

金沢から穴水方向のみ通行可 ※一般車両通行止め



令和6年能登半島地震 能登半島 国道249号等の緊急復旧詳細状況図

◆ 国道249号については、2／20をもって緊急復旧完了（啓開不可区間除く）





市町道路調査(通行可能・孤立状況調査)

○速やかな復旧及び効率的な被災状況調査の実施を目的に輪島市と穴水町において市町道路調査を実施。
○通行可能調査(通れるマップ)にあわせて孤立状況調査を実施。

●輪島市においては、1月6日より 延べ223班(19日間)で調査・とりまとめを行い、922区間の調査を実施

■通行可能調査

市内の道路の通行可否(車両・徒歩)を調査し、**通れるマップ**を作成

<輪島市南志見>



■孤立状況調査

孤立集落に対して、**車両・徒歩でのアクセス可否及び孤立要因**を調査

<輪島市大屋地区 滝又町、空熊町>【孤立解消(住民避難)】



【河川・砂防】

- 地理院調査データ、防災ヘリの調査をもとにTEC-FORCE調査を進めた結果、石川県内では6河川、14箇所では河道閉塞等を確認。県からの要請に基づき、整備局は監視カメラを設置するなど、リアルタイム監視体制を構築し、管理主体の自治体に監視映像を提供。
- 土砂災害発生箇所のうち河道閉塞箇所などの二次災害が発生するおそれの高い箇所については、県からの要請に基づき整備局による緊急的な砂防工事等を実施。
- 例えば、河原田川（輪島市熊野町）の河道閉塞現場の動きは次のとおり。
 - ✓ 1／2防災ヘリ調査で河道閉塞を確認。1／3TEC-FORCE河川調査班が現地調査。1／4TEC-FORCE砂防調査班がドローン調査実施、同日に県要請に基づき日建連北陸支部に河道閉塞解消に向けた緊急工事を依頼。1／5国総研・土研専門家による調査。1／7～緊急工事の施工方法等について関係機関協議。1／11日建連による現地工事着手。1／23国交省が県に代わって応急復旧に着手。1／29迂回水路の一部通水により浸水家屋の解消を確認。

【海岸】

- 海岸堤防が倒壊するなど甚大な被害が発生しており高潮・波浪等に対して浸水のおそれが高まっている宝立正院海岸については、県からの要請に基づき整備局による復旧工事を実施。

能登半島地震 河川・砂防・海岸 対応状況

R6.2.27現在



R249地すべり(輪島市大野町・深見町)
【国交省】



R249地すべり
(輪島市洪田町・町野町曾々木)
【国交省】



R249地すべり(珠州市仁江町・清水町)
【国交省】



紅葉川(輪島市市ノ瀬町)
【石川県】
【国交省】



R249地すべり(輪島市名舟町)
【国交省】



河原田川(輪島市熊野町)
【石川県】
【国交省】



広地川(志賀町広地)
【志賀町】



角間川(珠州市)
【石川県】



宝立正院海岸
【国交省】



寺地川(輪島市町野町)
【石川県】
【国交省】



山田川(能登町宮地)
【石川県】



鈴屋川(輪島市町野町)
【石川県】



牛尾川(輪島市町野町)
【国交省】



監視カメラ設置状況（寺地川）



寺地川は、現況安定した状態にあるが、
逕流の勾配が急であり保全対象も近い
ことから、監視体制を整備し、対応工事
実施中。
寺地川の谷出口付近で水圧式水位計
及びカメラ監視を実施中。

鈴屋川は、現況安定した状態にあるが、
今後の降雨等により不安定化することに備えて、監視体制を整
備し、対応工事実施中。
鈴屋川（右支川牛尾川）の河道閉塞（土砂ダム）箇所について、
投下型水位計および水圧式水位計で監視体制を強化。
牛尾川の谷出口付近で水圧式水位計及びカメラ監視を実施中。

全箇所：防災ヘリコプターで上空から定期的に監視
鈴屋川（右支川牛尾川）・寺地川：UAVにより定期的に監視



牛尾川における監視状況
（鈴屋川（牛尾川））



投下型
水位計
投下型水位計による湛水部の水位観測

河道埋塞が発生していた輪島市熊野町地先において、1月29日に河原田川の迂回水路を設置し上流部の家屋・道路浸水を解消。出水期に向け、引き続き応急復旧実施中。



宝立正院海岸 石川県珠洲市正院町～宝立地先 被災～復旧状況

海岸堤防が倒壊するなど甚大な被害が発生していた宝立正院海岸において、高潮・波浪等に対して浸水のおそれがあるため復旧工事を実施中。

【被災状況】

直立堤・水叩損傷 (R6.1.5)



直地区

水叩損傷 (R6.2.7)



宝立地区

水叩損傷 (R6.2.7)



上戸地区

【復旧状況】

袋詰め玉石工設置状況 (R6.2.22)



宝立地区

大型土嚢設置状況 (R6.2.26)



宝立地区

傾斜護岸間詰状況 (R6.2.19)



宝立地区

- 北陸地方の29港のうち22港で被害が発生。特に、能登地域の港湾では、港湾全体に被害が及び、港湾管理者である県からの要請に基づいて、1／2より七尾港・輪島港・飯田港・小木港、宇出津港・穴水港の6港において、港湾施設の一部管理を国土交通省で実施。管理を代行する内容は、「施設の点検・利用可否判断」、「応急復旧」、「岸壁の利用調整」等。
- 1／5までに水深4.5m以深の9岸壁において利用可能であることを確認。9岸壁の応急復旧を進めながら、被災地に支援物資を輸送する官民の船舶の利用調整を実施。
- 2／1、石川県、富山県、七尾市からの要請により、8港湾（七尾港、穴水港、宇出津港、小木港、飯田港、輪島港、伏木富山港、和倉港）、2海岸（飯田港海岸、和倉港海岸）及び能登空港について、大規模災害復興法の適用により、北陸地方整備局が自治体に代って本格復旧を実施することが決定。
- 2／16から輪島港において、漁船だまりの被災した漁船を移動または陸揚げするため、日本埋立浚渫協会北陸支部に出動を要請し、必要な水深を確保する浚渫作業を実施中。
- 2／27から飯田港において、被災した船溜まりの機能を回復させるため、日本埋立浚渫協会北陸支部に出動を要請し、被災した防波堤のブロックや沈船等を引き上げる作業を実施中。

令和6年能登半島地震による港湾の被害概要(一部管理中の能登半島地域6港湾を除く)

■ 北陸地方整備局管内の29港湾のうち、22港湾で被害が発生。



能登半島地域において被災した港湾・空港等への対応

- 能登半島地域では港湾全体に被害が及んでおり、石川県からの要請により、七尾港、輪島港、飯田港、小木港、宇出津港、穴水港の計6港について、1月2日以降、港湾法に基づき、国土交通省による港湾施設の一部管理を実施。
- また、石川県、七尾市からの要請により、上記6港に和倉港を加えた計7港湾2海岸及び能登空港について、大規模災害復興法の適用により、北陸地方整備局が自治体に代って本格復旧を実施。

輪島港 (最大水深7.5m、延長220m)
利用可能岸壁: 1岸壁/1岸壁

【現況と対応状況】

- 地盤隆起により、岸壁水深が最大1.5m程度浅くなっている。
→水深6mの岸壁として運用。
- 岸壁の背後に最大2mの段差が発生。
→応急復旧で車両のアクセス経路を確保済。
- 地盤隆起により、小型船だまりで多くの漁船が操業不能。
→漁船の移動・陸揚に必要な水深を確保するための、啓開作業(浚渫)を開始。



岸壁背後の沈下(被災後)



応急復旧の状況(1/5)



浚渫作業の状況(2/16)

和倉港・和倉港海岸 (最大水深3.0m、延長60m)
利用可能岸壁: 3岸壁/8岸壁

【現況と対応状況】

- 和倉温泉前面護岸に倒壊・傾斜が発生。
→応急復旧で大型土嚢設置中。



和倉港の被災状況

七尾港 (最大水深11.0m、延長260m)
利用可能岸壁: 3岸壁/8岸壁

【現況と対応状況】

- 液状化の影響により、車両のアクセス経路が寸断。
→応急復旧を実施し、車両の走行経路を確保済。

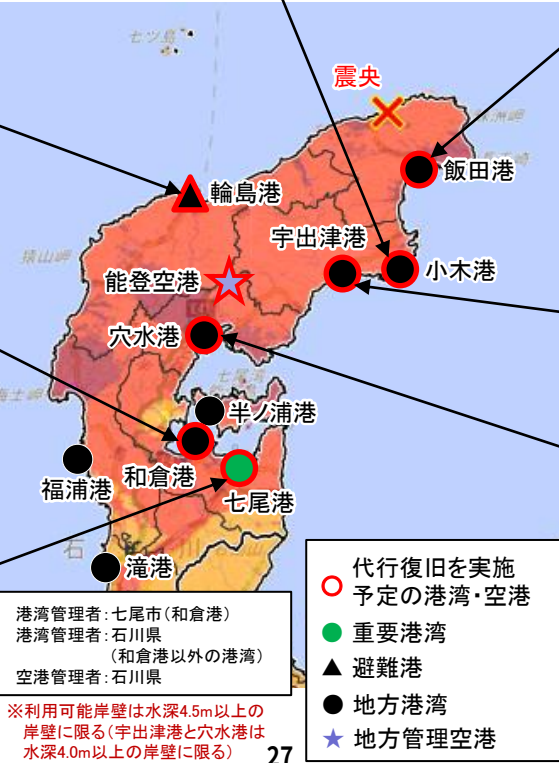


七尾港の被災状況

小木港 (最大水深5.0m、延長160m)
利用可能岸壁: 4岸壁/5岸壁

【現況と対応状況】

- 一部の岸壁で、岸壁水深が最大1m程度浅くなっている。
→当面、水深3.5m程度で運用。
- 岸壁背後に沈下(段差)が発生。
→応急復旧に着手、現在、舗装撤去中。



飯田港・飯田港海岸 (最大水深5.5m、延長100m)
利用可能岸壁: 1岸壁/2岸壁

【現況と対応状況】

- 航路内に小型船が沈没し、航行時に注意が必要。
→泊地内の沈没船の撤去を一部完了。引き続き、航路啓開作業実施中。
- アクセス経路にうねりが発生。
→応急復旧を実施し、作業完了。



防波堤の破壊(被災後)



航路啓開の状況(1/18)

宇出津港 (最大水深4.0m、延長205m)
利用可能岸壁: 1岸壁/4岸壁

【現況と対応状況】

- 岸壁背後に沈下(段差)が発生。
→応急復旧に着手し、現在、撤去したコンクリート殻を再利用し、埋め戻し作業中。

穴水港 (最大水深4.0m、延長187m)
利用可能岸壁: 3岸壁/4岸壁

【現況と対応状況】

- 岸壁の傾斜及びエプロンの沈下が発生。

能登空港 (滑走路延長2000m)
【現況と対応状況】

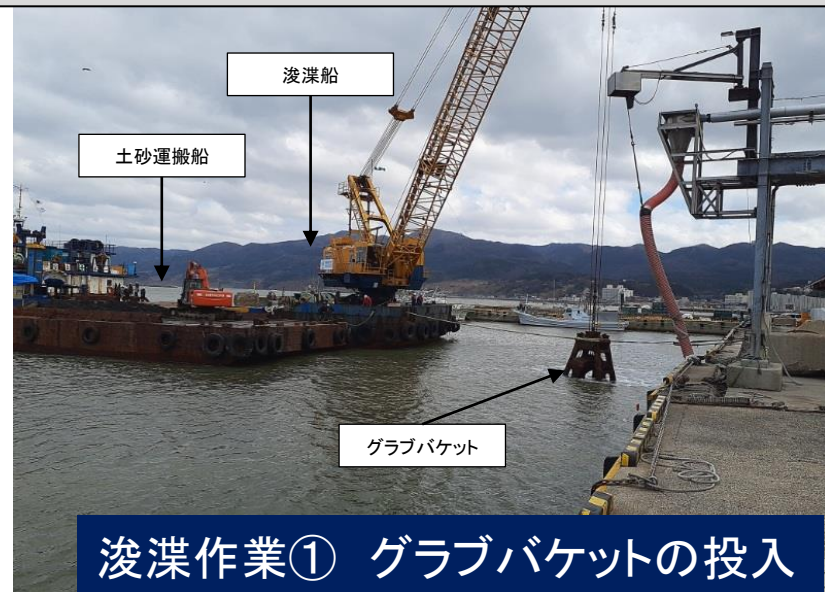
- 滑走路等を応急復旧し、運航再開。



能登空港の被災状況

【トピック】輪島港漁船だまりの啓開作業を開始

■ 令和6年2月16日 能登半島地震により甚大な被害を受けた輪島港漁船だまりにおいて、被災した漁船を移動または陸揚げするために必要な水深を確保する浚渫作業を開始しました。



被災した港湾施設における応急復旧工事の実施状況

■ 能登半島地震により甚大な被害を受けた石川県内の港湾において、権限代行により国が自治体に代わって岸壁等の港湾施設の応急復旧工事を実施中。

輪島港（輪島市）

岸壁水深を確保するため、土砂除却を実施。また、漁船を待避させるため、船だまりの啓開作業（浚渫）を実施。



応急復旧工事の実施状況（水深7.5m岸壁）
サンドポンプにより岸壁前面の土砂を除却



応急復旧工事の実施状況（船だまり啓開作業）

小木港（能登町）

物資輸送ルートを確認するため、被災範囲を撤去し、砕石等による埋め戻しを実施。



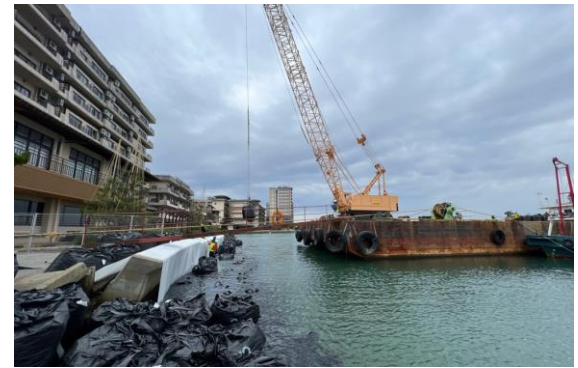
応急復旧工事の実施状況（水深5m岸壁）



コンクリート版撤去完了（水深5m岸壁）

和倉港海岸（七尾市）

和倉港海岸、和倉港の護岸の倒壊や侵食を防ぐため大型土嚢などを設置。



応急復旧工事の実施状況（和倉港海岸護岸）



応急復旧工事の実施状況（和倉港海岸護岸）

災害復旧工事の権限代行および直轄事業の担当事務所等

- 能登復興事務所
- 金沢河川国道事務所
- 能登港湾空港復興推進室



【権限代行】
国道249号沿岸部
延長約53km

R249沿岸部地すべり対策



【権限代行】
輪島港

能越自動車道
(国管理区間・石川県管理区間)
延長約18km

【国直轄施工】
まちの町野川
【砂防】

飯田港

かわらだ
河原田川
【河川・砂防】

能登空港

【権限代行】
小木港

【権限代行】
珠洲市正院町～宝立町
・宝立正院海岸
・飯田港海岸
(・鵜飼漁港海岸(農水省))

能越自動車道
(石川県管理区間)
延長約38km

穴水港



石川県

富山県

伏木富山港



本格復旧に向けて、技術的な検討を実施中

能登半島地震により被災した道路、河川、港湾等の本格的な復旧に向けて、学識経験者や関係機関からなる委員会等で復旧方法等に係る技術的な検討を実施し、災害に強い強靱なインフラを構築する。

道路

令和6年能登半島地震 道路復旧技術検討委員会

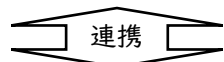
能越自動車道や権限代行区間等の早期復旧に向けた、技術的な検討・助言

R6.2.20 第1回委員会

- ・道路被害状況の確認
- ・H19の復旧対策の評価
- ・今後の調査方針妥当性等

R6.3月以降

- ・復旧方針案の検討等



社会資本整備審議会道路分科会
道路技術小委員会 (R6.2.21～)

土砂災害対策

能登半島地震における 土砂災害対策検討委員会

河道閉塞等に対する対策工法や施設配置計画、降雨時の警戒避難等について、検討

R6.2.19 第1回委員会

- ・今般の土砂災害の確認

R6.3月以降 順次

- ・観測計画等の確認
- ・対策工事の全体計画確認
- ・融雪期、梅雨期におけるリスクへの対応等

港湾

令和6年能登半島地震 被災港湾施設復旧技術検討会

港湾の係留施設等の復旧設計方針について、検討

R6.2.19 第1回検討会

- ・被災状況等の整理
- ・復旧設計方針(案)の検討等

R6.3月頃

- ・復旧設計方針の決定

令和6年能登半島地震 道路復旧技術検討委員会

○「令和6年能登半島地震 道路復旧技術検討委員会」を開催。

- ・開催日時 令和6年2月20日（火） 14:00～16:00
- ・開催場所 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所 会議室（Web併用）

<目的>

甚大な被害を受けた能越自動車道 輪島道路・穴水道路及び直轄権限代行区間等の早期復興に向けた対策について、専門的な学識経験者等に基づき助言をいただく

令和6年能登半島地震 道路復旧技術検討委員会 構成員 (敬称略)

所属・役職	氏 名	備 考
金沢工業大学 金沢工大附置研究所 地域防災環境科学研究所 教授	川村 國夫	防災工学、トンネル、地盤災害、基礎・地盤工学
国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 道路基盤研究室長	渡邊 一弘	道路土工（斜面、法面等）
国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 橋梁研究室長	白戸 真大	橋梁全般
国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 構造・基礎研究室長	西田 秀明	道路基礎、トンネル
国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 道路地震防災研究室長	上仙 靖	道路地震防災（リスクアセス等）
土木研究所 地質・地盤研究グループ 上席研究員（特命事項担当）	浅井 健一	土砂崩壊・地質
土木研究所 地質・地盤研究グループ 土質・振動チーム 上席研究員	佐々木 哲也	盛土構造（土質等）
土木研究所 道路技術研究グループ トンネルチーム 上席研究員	日下 敦	トンネル全般
土木研究所 構造物メンテナンス研究センター（CAESAR） 橋梁構造研究グループ 上席研究員	大住 道生	橋梁耐震

○

【議事概要（委員からの意見）】

- ・道路ネットワーク全体の中での当該道路機能の役割、修復性や代替性、最低限の通行機能確保などの観点も含め、復旧方法の検討を進めていくべき。
- ・構造物については、損傷したもの、損傷しなかったもののメカニズムを分析し、復旧にも反映すべき。



委員会の様子



委員会後のブリーフィングの様子

○：委員長

□開催日時
令和6年2月19日(月) 10:30～11:30

□開催場所
北陸地方整備局 1階 入札室
石川県庁 14階 1407会議室 (Web併用)

□委員名簿

区分	氏名	機関名・所属・役職	会議
			参加方法
学識委員	内田 太郎	筑波大学 生命環境系 教授(砂防計画)	WEB
	川村 國夫 【委員長代行】	金沢工業大学 地域防災環境科学研究所 教授(地盤工学)	WEB
	堤 大三	信州大学 農学部 教授(砂防工学)	WEB
	丸井 英明 【委員長】	新潟大学 名誉教授(自然災害科学)	WEB
	柳井 清治	石川県立大学 生物資源環境学部 特任教授(流域環境学)	WEB
	山越 隆雄	国土交通省 国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部 砂防研究室長	WEB
行政委員	村井 雅浩	気象庁 金沢地方気象台 次長	WEB
	松浦 直	国土交通省 北陸地方整備局 河川部長	新潟会場
	杉本 敦 (本田 正和)	国土交通省 北陸地方整備局 能登復興事務所長 (併任 金沢河川国道事務所 流域対策課長)	WEB (代理)
	大島 和宏	石川県 危機管理監室 次長	石川会場
	桜井 亘	石川県 土木部 参事	石川会場
	中前 豊 (黒田 浩二)	輪島市 総務部長 (総務部 防災対策課長)	WEB (代理)
	田川 克彦	輪島市 建設部 技監	WEB

□各委員からの意見

■ 委員会で今後議論いただく予定に対して

- 4月の委員会では融雪期におけるリスク検討をしたいとのことだが、写真を見る限り、河道閉塞等の14箇所については問題になるような積雪がないように思う。現時点でもほとんど積雪がないと認識している。
- 平成16年の中越地震の際と異なり、4月まで積雪が残っている状況にはならないと考えられる。もし融雪期におけるリスク検討をするのであれば次回開催時期を早める必要があるが、そもそも融雪リスク検討自体の必要性の有無を考えた方が良い。
- 降雪量が少ないため、融雪リスクは高くないと考える。梅雨時期の検討に重点を置いた方が良い。
- 河道閉塞が要点となっているが、議論にあたり、河道閉塞の規模や侵食状況等のデータを次回委員会で提示いただきたい。
- 河道閉塞の上流で地すべりが発生している箇所があり、この影響検討も議題した方が良い。
- ハード対策の検討にあたっては、材料輸送の可否にも影響するため、道路復旧担当との情報連絡を確実に行うこと。



委員会開催状況

令和6年能登半島地震 被災港湾施設復旧技術検討会

○「令和6年能登半島地震 被災港湾施設復旧技術検討会」を開催。

- ・開催日時 令和6年2月19日（月） 16:00～18:00
- ・開催場所 北陸地方整備局 港湾空港部（Web併用）

<目的>

甚大な被害を受けた金沢港を含む能登半島の直轄権限代行港湾関連施設等の早期復興に向けた対策について、専門的な学識経験者、関係団体等に助言をいただく

令和6年能登半島地震被災港湾施設復旧技術検討会 構成員

（順不同・敬称略）

	氏 名	所 属 ・ 役 職
有識者	横田 弘	北海道大学 名誉教授
"	竹信 正寛	国土交通省国土技術政策総合研究所 港湾・沿岸海洋研究部港湾施設研究室長
"	森川 嘉之	（国研）海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所 地盤研究領域長
"	水谷 崇亮	（国研）海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所 地盤研究領域 上席研究官
"	佐々 真志	（国研）海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所 地盤研究領域 動土質研究グループ長
"	野津 厚	（国研）海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所 地震防災研究領域長
"	小濱 英司	（国研）海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所 地震防災研究領域 上席研究官
関係団体	平井 達也	（一社）日本埋立浚渫協会北陸支部 技術委員長
"	規矩 正明	（一社）日本埋立浚渫協会北陸支部 副技術委員長
"	北澤 壮介	（一社）港湾空港技術コンサルタンツ協会 理事 技術調査委員長
"	奥田 薫	（一財）港湾空港総合技術センター 審議役
行政機関	納橋 豊暢	石川県土木部 次長 兼 港湾課長
"	佐々木 規雄	国土交通省北陸地方整備局 港湾空港部長
"	美野 智彦	国土交通省北陸地方整備局 能登港湾空港復興推進室長
"	舟川 幸治	国土交通省北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所長
"	武田 均	国土交通省北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所長
オブザーバー	浅見 尚史	国土交通省港湾局 技術企画課 建設企画室長
	宮田 正史	国土交通省港湾局 技術企画課 技術監理室長
	工藤 健一	国土交通省港湾局 海岸・防災課 災害対策室長

【議事概要（構成員からの意見）】

- ・地殻変動による隆起被害、液状化による沈降被害等、被災メカニズムを踏まえた復旧方針を検討すること。
- ・施設の機能、被災の程度を十分に考慮すること。



検討会の様子

- 県道・市道・町道の道路啓開等の緊急工事では、日本建設業連合会各社のほか、石川県建設業協会等の地元建設業者が地域の守り手として全力で実施。
- 被災地である能登地域の建設業者は自らが被災者でありながら道路啓開等の緊急工事に従事。加えて、能登地域以外の地区協会（金沢や加賀など）からローテーションを組んで複数班（最大25班／日）が能登地域の緊急工事に従事。オール石川の総力戦で能登地域の復旧にあたる。



「ふるさとを何とかしたい熱意で、被災した会社や人たちが働いている。言葉にできないほどの感謝。」

（石川県建設業協会長 談）

【被災地の建設業者の活動例】

- 自宅が住めなくなり、避難所から日々現場に通う
- 通常は道路啓開に従事、雪が降り除雪車が稼働する際には除雪車のオペレーターとして従事

【金沢・加賀等の建設業者の活動例】

- 2泊3日でローテーションしながら現地作業
- 現地で車中泊・自炊をしながら現地作業時間を最大化する工夫
- 現地に入れた重機を引き継ぎながら工事を継続

【石川県建設業協会の主な災害対応】

- ① 道路啓開等の緊急工事
- ② 救援物資（飲料水、給水タンク、ブルーシート等）の調達・輸送
- ③ 復旧資材（碎石、土嚢等）の調達・輸送



- 市町からの要請に基づき、石川の地元建設業を補完する形で、新潟及び富山県の建設業協会が道路段差解消等の緊急工事にあたる。
- この他、新潟、富山及び長野県建設業協会が救援物資・復旧資材等（飲料水、ブルーシート、三角コーン、砂、砕石など）の調達・輸送を担う。



道路の段差解消作業



物資輸送



隣県建設業者の思い

大きな災害の時にはお互い様の精神で、自らの地域を守るような気持ちで災害対応に当たっています。
以下、支援活動した建設業者から寄せられたコメントです。

支援に当たっている際、地元の方より「近所のスーパーが明日から営業再開」と聞いたので、周辺道路を徹底的に補修し、安全に買い物に行けるように努めました。

変わり果てた町並みに言葉を失いました。その中でも必死に生活する地元の方々を見て、私達は微力ではありますが精一杯の協力をさせていただきました。

作業中に地元の方から「珠洲のためにありがとうございます」という言葉をいただきました。現場は気温が低く体は寒いですが、心はとても暖くなりました。

積雪があり厳しい作業環境ですが、一日でも早く地域の皆さんが利用できるように頑張ります。

- 地震発災直後の1月2日から、道路啓開等の緊急工事に従事。累計32班12社により、国道249号沿岸部、能越自動車道等、また県道・市道・町道等のライフラインの復旧関連路線において、24時間体制で緊急復旧にあたる。
- 地震による河道閉塞、土砂災害発生箇所等の緊急対応のため、1月23日から随時工事に従事。5地区4社体制により、輪島市河原田川、町野川水系の河道閉塞、地すべり対策、珠洲市宝立正院海岸の倒壊した海岸施設等の緊急工事にあたる。



地すべり地区 緊急工事



道路啓開 緊急工事



河道閉塞箇所 緊急工事



海岸施設 緊急工事

- 2月14日から7社により、国道249号の権限代行区間とそこまでのアクセス道路（県道6号、272号、277号の3路線）において、路面補修と拡幅工事にあたる。
- 砕石などの資材の運搬を担う。



- (一社)日本埋立浚渫協会が各港において応急復旧工事を実施中。



飯田港：泊地緊急復旧工事



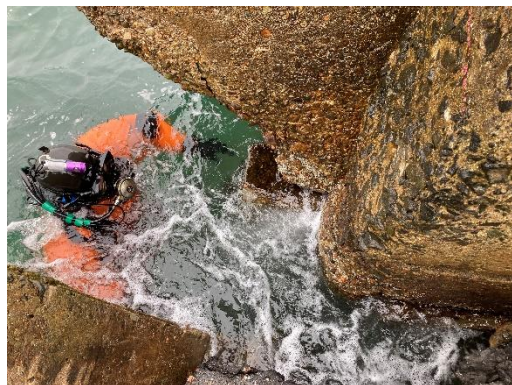
宇出津港：水深4m物揚場緊急復旧工事



七尾港 大田地区：水深13m岸壁
緊急復旧工事

- (一社)港湾空港技術コンサルタント協会、(一社)海洋調査協会が港湾施設調査を実施中。

(一社)港湾空港技術コンサルタント協会



七尾港 矢田新地区：被災状況の潜水調査



穴水港：被災状況の潜水調査

(一社)海洋調査協会



直江津港：深浅測量(ナローマルチ)の実施

- 地震による被害の拡大の防止と被災施設の早期復旧に向けて、建設コンサルタンツ協会北陸支部、全国測量設計業協会連合会北陸地区協議会、北陸地質調査業協会が、災害応急対策を実施するための測量・調査・設計等に従事。
- 災害支援物資の集積場としてマリンタウン催事会場及び駐車場が使用可能か空洞等を調査。



崩壊状況の調査設計等

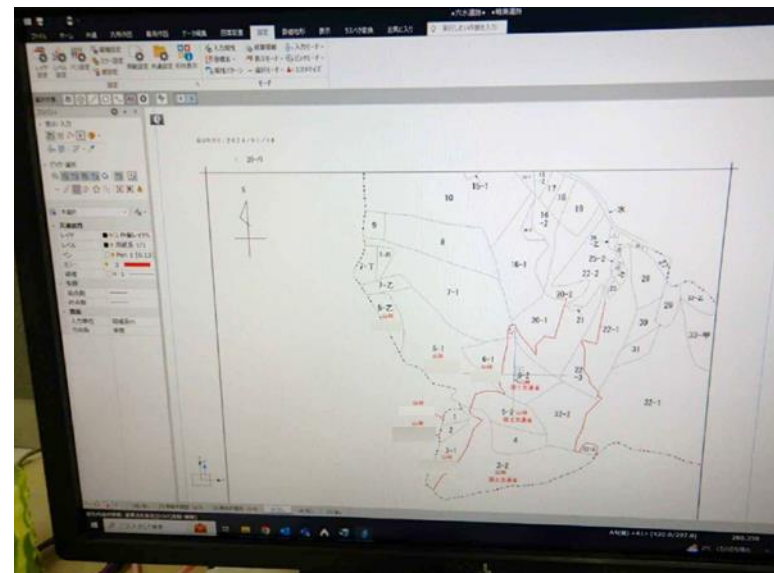
マリンタウンでの空洞調査

- 日本補償コンサルタント協会北陸支部に対し災害協定に基づく要請を行い、登記簿調査及び公図調査等の法務局調査を進める。
- 河道内に堆積した土砂等除去・護岸整備及び水路工や擁壁補強などの計画決定され次第、迅速に用地取得等を行うために用地図等を作成。



【活動例：法務局調査】

- 土地の位置関係や形状をしるために公図を調査
- 土地の登記記録を調査し、土地の所有者や面積等を確定



【活動例：用地図等作成】

- 権利者確認調査を行い土地の地番及び権利者が確定
- 工事用道路又は仮設のために借地を要する範囲を用地図として作成

- 道路啓開作業や河道閉塞等の状況確認のため、(一社)建設電気技術協会北陸支部から電気通信技術者を被災地に派遣いただき、「衛星回線」や「通信事業者回線(LTE等)」を駆使した被災箇所の映像配信を実施
- また北陸支部からの応援要請により、全国の協会会員が多数支援
- 各映像は、自治体を含む関係機関へ同時にライブ配信
- 24時間の連続稼働を守るため、突発障害や電源確保に備えて車中泊で対応



衛星通信車による道路啓開状況配信



モバイル映像伝送装置による道路状況配信



可搬型衛星画像伝送装置(Ku-SAT)



日々の発電機給油とバッテリーチェック

【現地作業からの声】

- ・衛星通信車の移動時、高齢者から深々と頭を下げていただく場面を何度も経験した。
- ・衛星通信車の給油の際、スタンドの店員から「頑張ってください！」と激励の声を頂いたが、逆にこちらが伝えなければならない言葉だったため強く印象に残った。
- ・現地の支援業者に携行ポリタンクを貸してあげたところ、お返しに大量の食料品を頂いた。支援者相互による支え合いの重要性を痛感。
- ・発災当初は、奥能登では携帯電話の電波がダウンしており、現場の指示や確認に苦労したが、衛星回線が活用でき非常に重宝した。

- 全国の地方整備局から派遣された災害対策車両により、被災地での活動が円滑に。
- ◆ 全国から地整職員とともに、災害対策車両を操作するオペレーターを各地の企業から派遣。
- ◆ 照明車による道路啓開の夜間作業支援・避難所等の電源支援、散水車による給水支援、待機支援車による水道復旧事業者の宿泊支援等に従事。



散水車による給水支援(全地整)



照明車による電源支援(関東・近畿・中国)



道路啓開の夜間作業支援(関東・中部)



待機支援車による水道復旧従事者の
宿泊支援等(東北・関東・四国・九州)

◆他地整からの応援車両（速報値 ※変わる場合があります）

										(台)
地方整備局	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計	北陸	合計
照明車		25	5	15	5			50	33	83
散水車	2	8	2	2	2	2	2	20	2	22
待機支援車	4	3	6		3	7	5	28	4	32
その他		1	1	2	4			8	4	12
計	6	37	14	19	14	9	7	106	43	149

- 各協会・多くの事業者の皆様は、TEC-FORCEやリエゾンの派遣のための車両の手配・運転、支援物資の運搬、災害対策車両への給油・不具合対応（現地整備）等、様々な後方支援活動にご協力いただいています。



Car-SAT派遣（運転）



TEC-FORCE派遣（運転）



待機支援車による支援物資の運搬・配送



災害対策車両等への給油



TEC-FORCE・リエゾン派遣車両
（レンタカー）



災害対策車両の現地整備
（（一社）日本建設機械施工協会（北陸支部））